

総務生活委員会会議録

1 日 時 令和6年12月11日（水曜日）

開会 午前11時42分

閉会 午後 1時52分

2 場 所 第1委員会室

3 出席又は欠席した委員の氏名

(出席)	委員長	山 田 雅 徳	副委員長	岡 崎 亨 一
	委 員	森 安 健 一	委 員	三 宅 啓 介
	〃	高 谷 幸 男	〃	津 神 謙太郎
	〃	山 口 久 子	〃	剣 持 堅 吾
(欠 席)	なし			
(その他出席者)	なし			

4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名

議会事務局長	西 村 佳 子	同次長	宇 野 裕
同主任	東 宗 利		

5 説明のため出席した者の職氏名

副市長	中 島 邦 夫	政策監	難 波 敏 文
総合政策部長	梅 田 政 徳	総務部長	内 田 和 弘
総務課長	小 川 修	財政課長	岡 真 里
市民生活部長	平 田 壯太郎	交通政策課長	渡 邊 康 広
交通政策課主幹	林 輝 昭		

6 報告事項その結果

報告事項

- (1) 総社市中期財政見通し（令和7年度～令和11年度）について
- (2) 新生活交通「雪舟くん」の車両不具合について

7 調査及び報告の概要

別紙のとおり

8 その他必要な事項

別紙のとおり

開会 午前11時42分

○委員長（山田雅徳君） ただいまから総務生活委員会を開会いたします。

本日の出席は8名全員であります。

これより、所管事務調査を行います。

報告事項（１）、総社市中期財政見通し（令和７年度～令和11年度）について当局の報告を願います。

財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 報告事項（１）、総社市中期財政見通し（令和７年度～令和11年度）につきまして、資料１により補足的に御説明いたします。

今回の中期財政見通しは令和７年度から令和11年度までの５箇年の計画で、実施計画に計上されている事業や各費目の推移の傾向などから一定の仮定に基づき決算ベースで推計し、毎年見直しを行っているものでございます。

具体的には、２ページに記載しております推計方法で積み上げておりますが、実際の伸び率はもっと大きいものもございますので、実態と乖離しないよう全体で調整しております。

１ページを御覧ください。

３、中期財政見通しが全体像でございます。令和６年度は新庁舎建設事業費がございますので、歳入歳出額の規模が360億円超えと大きめです。また、令和６年度以降は財政調整基金からの繰入れが発生する見込みでございます。

３ページを御覧いただきまして、歳入でございます。

こちらは見込み過ぎでは歳入欠陥になりますので、厳しめに計上しております。

地方税及び地方交付税につきましては、経済成長を見越して若干の上昇としております。

国・県支出金は、令和６年度までは新型コロナウイルスや燃料物価高騰対応のため市町村へ臨時交付金、国民へ給付金などが支給され、大きな額で推移しております。今後は社会保障費の伸びに伴う増加を中心に見込んでおります。

分担金、負担金、寄附金の中にはふるさと納税寄附金を含んでおり、令和７年度以降は毎年８億500万円で試算しております。

繰入金は、財源不足を補うための財政調整基金からの繰入額が大きく推移しておりますので、一般財源が膨らんでいるということでございます。

地方債は、普通建設事業等の財源確保のためのいわゆる借金でございます。新庁舎建設等の大型事業の返済が今後多額で推移するため、新庁舎建設関連事業が終了する令和10年度以降の借入額をセーブし、後の返済額を少しでも抑制することとしております。

４ページ、性質別の歳出額でございます。

令和６年度は、新庁舎建設事業に関連して物件費と普通建設事業費が突出しております。令和７年度以降はインフレの高まりを受け、人件費や物件費等の伸び幅が大きくなっております。特に物

件費の伸びは、最低賃金の引上げや物価高騰などが委託料や使用料及び賃借料などにも影響しているためです。

また、扶助費は主には生活保護費、障がい者・児の各給付費、保育関連経費、小児医療費などですが、軒並み大幅増の傾向でございます。

なお、債務負担行為を設定しております病院施設整備補助金の薬師寺慈恵病院分10億円につきましては、令和9年度の補助費等に計上しております。

次に、5ページの7、市債・公債費の推移と見通しでございます。

緑色の棒グラフが公債費で、これはいわゆる借金返済額でございますが、令和6年度以降徐々に増えており、令和10年度以降は30億円を超える見込みで一般財源を大きく圧迫していきます。また、金利も上昇傾向にございますので、借金返済額をできるだけ抑えるために毎年の市債発行額を抑制しております。

次に、6ページの8、基金残高の推移と見通しでございます。

青を赤枠で囲んだ棒が財政調整基金の残高です。令和5年度がピークで、令和6年度以降取り崩していく見込みでございます。災害時を想定して35億円程度は残高を確保しておきたいですが、必要以上にため込むばかりではなく、生きたお金の使い道となるようしっかり管理していきたいと思っております。

7ページの9、財政指標の推移と見通しでございます。

緑色の折れ線グラフが経常収支比率で、扶助費や公債費など必ず払わなくてはいけない経常的経費が市税や普通交付税などの経常的収入のどれぐらいを占めているかの割合で、財政の硬直化度合いを見るものです。令和3年度は普通交付税の増額などがあり全国的に数値が激減しましたが、令和4年度以降は本来の姿に戻り、今後は95%前後で推移する見込みです。

青色の折れ線グラフは実質公債費比率で、借金返済額の大きさを表し、紫色の折れ線グラフは将来負担比率で、将来への負債の大きさを割合で表したものです。

以上でございますが、自治体財政は国の取組や国際情勢、自然災害などにも大きく左右されますので、あくまで向こう5年間の目安として捉えていただければと思います。

また、現在国で審議されておりますいわゆる103万円の壁については、国の動向を注視しておりますので、この計画には反映しておりません。ただ、間違いなく申し上げられることは、財源は限られております。よいと思われる事業全てを行っていくことは不可能でございますので、災害やコロナを乗り越え、DX化が進む世の中に取り残されないよう、総社市の未来に何を残していくのか、足元見ながらやるべきことをやっていけるだけの財源を確保し、健全財政を維持、運営してまいりたいと思いますので、委員の皆様方の御理解をお願いいたします。

説明は以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 説明ありがとうございます。教えてください。

一般質問でも学校施設等の計画の予算のことを聞かせていただきましたけれども、総社市の公共施設のかかなり大きな位置を占めているああいうものの維持管理であるとかというのは、この中に反映されているのか、確認させてください。

○委員長（山田雅徳君） 財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 今回の計画につきましては、原則的には実施計画に計上された事業を計上しております。毎年見直しのほうは行っております。また、平成27年度からビッグ5と呼ばれる事業のうちの四つの大型事業を行ってまいりました。そのために長寿命化計画等には遅れが生じている状況でございます。また、併せてFM計画なども今後検討していかなければならない時期にもなっておりますので、限りある財源を有効に活用していくためにどのようなことをしていくかは今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 今の説明だとよく分からないんですけど、これには入っていないというふうに理解すればいいですか。

○委員長（山田雅徳君） 財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 失礼いたしました。幾らかは見込んでおりますが、その規模、前議会で言われていたような総社西小学校であるとか、そういう大型事業については見込んでおりません。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 分かりました。

それと、さっき言いましたビッグ5のうち市立美術博物館であるとか、例えば作山古墳の発掘をこれからしていく可能性が出てくると、例えばL R Tの話も今取りあえず凍結のような状況ですけれども、こういったものもこれから重なってくる可能性は十分あるというふうに理解すればいいですか。

○委員長（山田雅徳君） 財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 三宅委員のおっしゃられるとおりでございます。ビッグ5のうちの新庁舎のほうの関連事業が令和9年度までありますので、令和9年度までは新庁舎の建設事業費、令和10年度以降で、作山古墳については全体で6,000万円程度でございますのである程度は見込んでおりますが、市立美術博物館であるとかL R Tであるとかというのは今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 分かりました。

それともう一点だけ教えてください。

この２ページのところで、歳出推計方法の中、維持補修費が1,500万円増加しているということですが、これは昨今もう本当に維持補修費というのが多分かなり高額で重要になってくると思うんです。これは1,500万円というその根拠というのは何ですか。

○委員長（山田雅徳君） 財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 具体的な根拠というのはございませんが、維持補修費であるか普通建設事業費であるか、どちらにかかってくると思いますので、全体的に上乗せしている状態でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 分かりました。じゃあ今もう既に補修費というのは相当な額がある中で、来年度以降の中期財政計画では1,500万円、恐らく社会の流れでプラスはするけれども、この1,500万円にそんなに根拠はないというふうに、分かりました。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） 他に質疑はありませんか。

高谷委員。

○委員（高谷幸男君） いろいろ御説明いただきまして、こういうふうな表を出そうとすれば大変であったと思います。そのような中で今のビッグ５あるいはスポーツセンターの15億円のエアコンですか、こういうものは入っていないのもちろん思っておりますが、これから10億円単位のものがどんどん増えてくるんじゃないかという感じもいたしております。そのあたりはこれから見直しをしながら毎年毎年ローリングでつくっていただければ結構かと思いますが、ただ普通建設事業と経常収支の絡みももちろんあると思いますが、土木担当員の要望等々が非常に遅れとるというのは御承知であろうと思いますが、このあたりを1億円、2億円、あるいは3億円、5億円というようなものをこれから増やしていくというような考え方はございませんか。

○委員長（山田雅徳君） お答えができますか。

土木は産業建設委員会、全体の予算ですか。お答えができるならば。

いいですか、財政課長。

○財政課長（岡 真里君） すみません、1点修正させてください。

スポーツセンターのエアコンについては、今回の中期財政見通しの中で見込んでおります。あと、今年度道づくり予算ということで人口増パッケージの中で1億円上乗せしております。今後も続けていくかどうかは、また来年度以降の予算の中で御相談させていただければと思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） 全体的な数字を見せていただきますと、確かに総予算が少なくなり、さらに普通建設事業が少なくなり、これはもう致し方ないのかなと。扶助費が増えてきたり公債費が増えてきたりするわけですが、もちろん収入は低めに見るということが鉄則でございます。これはよく分かっておるつもりですが、これからふるさと納税課ですか、というものをつくって、それがどんどんどんどん増えてくれば、特定目的の使途は決まってくるわけですけど、それ以外の一般的に何でもよろしいよという寄附金についてはどういうふうな目的で使っていくかということももちろんあるわけですけども、そういうふうなものを分析の中で普通建設事業が増えてくればいいがなという感じを持っておりますが、そのあたりの考え方はどうでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 総合政策部長。

○総合政策部長（梅田政徳君） ただいま御質問いただいた事項でございますけれども、これは財政の見通しということでこれを作っております。今、高谷委員のほうからお話あったところ、政策的経費をどこに割り振っていくかということかと思っておりますけれども、そのあたりやつまりこれからまた新たな総合計画も立っていきますので、その中でまさに道路の維持管理であるとか、そういうところにどの程度重点を持って政策を進めていくか、それを財政ともよく相談をしながら進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） 収入も厳しくなり、支出も新庁舎ができればその維持管理費もたくさん要するという状況は分かります。経常収支も徐々に徐々に上がって、本当に財政的に余裕がないという状況にはなるかと思っておりますけれども、何か特別にこういうものが考えられれば財政も好転するんじゃないかというふうな策はありませんか。

○委員長（山田雅徳君） いけそうですか、いけそうでなければ。

財政課長。

○財政課長（岡 真里君） 特効薬的なものはなかなか難しいんですけど、やはりいいと思われる事業はたくさんあるんですけど、その中で何をやっていくか、あともう始めてしまったらなかなかやめられませんので、やめるというか目標を決めてPDCAをきちんと回していった新しいものに新陳代謝を図っていくみたいなことはやっていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） 国も政権が替わったりいろいろあって厳しい状況になっておるわけですけども、8月末が普通であれば概算要求がまとまり、年末には新年度の予算もきちんと決まってくるような状況ですけども、新しい補助金制度というものもたくさん出てくると思います。そういう中で市が大きな事業をする、1,000万円単位以上の大きなものについては、国の補助金あるいは県の

補助金を見通した予算編成になろうと思いますけども、そのあたりを各課に指導いただきまして、補助金財政ではありませんが、補助金をもらって事業を進めていくというのを少し厳重に指導していただければいいんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 政策監。

○政策監（難波敏文君） 先ほど財政課長が申し上げましたように、新規の事業の相談があった場合、補助金があるから当然この事業を進めたいというものもありますけど、先ほど財政課長が申しましたように、一旦開始するとやめにくいという事業も当然ございます。ですから、補助金があるから必ずやるというものでもないというふうに考えております。時期を見て、やめられるもの、やめられないというものがありますので、それを見極めて財政課のほうと担当課のほうで相談しながら、その事業を開始するかどうかというのもよく議論をして今進めさせていただいているところでございます。

当然新規事業の相談があった場合には、今高谷委員おっしゃるようにそれについて有利な補助金があるか、有利な起債があるか、そういったものも考慮しながら担当課のほうにはそこを勉強していただくようにも財政課のほうから周知はしていただいているというところでございます。限られた財源でございますので、事業を進める場合にはそういったこともよく注意しながら進めさせていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） 国の補助金もそれこそスクラップ・アンド・ビルドであって、3年したらなくなる、しかしながら同じような補助金があるまま残ってくるという状況も多々あります。以前私が本会議で質疑をしたときに、御承知の方もいらっしゃると思いますけども、何千万円の事業に対して一切補助金を頂かずに市単独予算でやったということがありました。これはいかななものかなと思って再質問をいたしましたけど、途中で止められて追及できなかったわけですけども、やはり厳しい財政状況の中で限られた財源の中でやっていくということになれば、やはり補助金はあるいは有利な起債というのは、これはもう欠かせない財源でありますので、その辺も十分検討しながらやっていただきたいと、このように思いますので、今後ともよろしくお願いします。

○委員長（山田雅徳君） 答弁必要ですか。

（「あれば」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） 政策監。

○政策監（難波敏文君） 当然有利な補助金、有利な起債があったらそれを有効活用させていただきたいというふうに思っております。ただ、補助金の中には単に補助金をくれるだけではなく、それを頂く上でいろんな条件がつくという場合もございます。そういったものをよく考えながら、考慮しながら適切に執行してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですね。

他に質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） なければ、私から1点お尋ねいたします。

先ほどの答弁の中でスポーツセンターのエアコンの金額というのがある程度反映されているという答弁がありましたので、すみません、報告事項ということなのでその資料の見方で教えていただきたいんですけども、その金額というものがこの資料の中、表のどの部分でどれぐらいの期間から反映されているのかというのを教えていただけますか。表の見方のところで、ごめんなさい。

財政課長。

○財政課長（岡 真里君） スポーツセンターのエアコンにつきましては、普通建設事業費の中に組み込まれておりますので、令和6年度以降実施計画に計上されている期間で、金額についてはまだ具体には、こちらのほうでは金額は試算しておりますが、その程度の金額を見込んで普通建設事業費の中に組み込んでおります。また、それに伴う歳入につきましては、公債費のほうに組み込んでおります。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） お答えいただきました。じゃあ、そもそも具体的な金額がまだ決まっていない状況ではあるのは当然なんですけども、ある程度の金額というものをある程度見込んでこの中には組み込んでいくということの認識でよろしいでしょうか。

政策監。

○政策監（難波敏文君） 今議会の初日に基本計画の部分を先議いただきましてありがとうございました。それに基づきまして今後事業を進めていきたいというふうに思っております。一番大きいのは工事費でございます。今議会、また文教福祉委員会でも副市長のほうから御説明させていただきましたように、令和8年度の夏までに完成を目指してやっていきたいということになりますと、令和8年度に工事費が一番かかるというふうに思っております。これはやり方によって金額がかなり違うというふうに思っておりますが、今令和8年度に工事費のほうを10億円、普通建設事業のほうに10億円、考慮させていただいてるところでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 分かりました。ありがとうございます。

他に質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） これをもって、質疑を終結いたします。

本件については、報告を受けたということにいたします。

この際、しばらく休憩いたします。

休憩 午後0時6分

再開 午後１時１分

○委員長（山田雅徳君） それでは、再開いたします。

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、報告事項（２）、新生活交通「雪舟くん」の車両不具合について当局の報告を願います。
交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） それでは、報告事項（２）、新生活交通「雪舟くん」の車両不具合につきまして御説明いたします。

資料２を御覧ください。

まずは、１、概要でございますが、新生活交通雪舟くんの車両不具合によりまして、走行中に停車をするという事象が令和６年２月１３日から１０月２２日の間に３件発生いたしました。いずれの事象につきましてもエンジンの故障が原因となっております。

続きまして、２、車両不具合発生状況でございますが、その下の表を御覧ください。

まず、１件目につきましては、令和６年２月１３日、雪舟くん５号車８時便が乗客１名を乗せ清音柿木地内を市街地方面に向けて走行中、清音柿木地内八柱神社付近において動かなくなり停車したものでございます。

続きまして、２件目につきましては、令和６年６月５日、雪舟くん４号車１０時便が回送中、門田地内総社西中学校付近において動かなくなり停車したものでございます。

続きまして、３件目につきましては、令和６年１０月２２日、雪舟くん３号車１１時３０分便が乗客２人を乗せ中原地内を西部地区方面に向けて走行中、中原地内総社大橋東交差点付近において動かなくなり停車したものでございます。

３件いずれにおきましても事故はなく、停車後の対応といたしましては雪舟くんはレッカー車で移動、乗客につきましては代替えのタクシーで目的地までお送りしております。

その後、不具合のあった３台の車両につきましては、いずれもエンジンの交換を行っておりますのでございます。

続きまして、３、不具合装置及び原因でございますが、このたび不具合のあった３台の車両につきましては、いずれもエンジン内部のコンロッドという部品の破損によるものでございます。コンロッドの破損の原因につきましては現段階では解明に至っておりませんが、三菱自動車工業株式会社において引き続き調査中でございます。

では、コンロッドがどのようなものを御説明いたします。

下の図を御覧ください。

参考といたしまして、エンジン全体図及びコンロッド図を掲載しております。

まずは左の図、エンジン全体図を御覧いただければと思います。

図のようにエンジンの内部にコンロッドという部品がございます。そして、コンロッド周辺を拡大した図が右の図、コンロッド図となりますので、そちらのほうを御覧ください。

この図のようにコンロッドは上にありますピストンと下にありますクランクシャフト、これを連結する部分でございまして、主な役割はエンジン内で発生するピストンの上下運動をクランクシャフトに伝達し、回転運動へと変換する部品となっております。

それでは最後に、4、今後の対応でございますが、3点上げさせていただいております。

1点目は、コンロッドの破損の原因について三菱自動車工業株式会社において引き続き調査。これは先ほど御説明いたしましたように、コンロッドの破損の原因につきましては現段階では解明に至っていないため、三菱自動車工業株式会社において引き続き調査を行ってまいります。

2点目は、エンジンの故障が起きていない6台の車両点検を実施予定。これは、エンジンの故障が起きていない6台の車両点検について三菱自動車工業株式会社に要望しており、調整を行っております。

3点目は、交通事業者、三菱自動車工業株式会社との連携を強化し、安全確保に努める。これは、雪舟くんの安全確保に努めるため、雪舟くんの運行を委託している交通事業者の運転手に対し、異音、振動などの異常な挙動にこれまで以上に注意を払っていただき、何か異常を感じれば速やかに報告するように。また、万が一車両の不具合が生じた場合は冷静に対処し、乗客の安全対策を講ずるように伝えておりまして、また三菱自動車工業株式会社にはケースに応じたサポート、アドバイスを受けるようにするなど、両者との連携をさらに強化していくものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

森安委員。

○委員（森安健一君） 今回は報告事項ということで、そんなに詳しくは質問しませんけども、この3件とも同じ箇所なのか、それも教えていただきたいと思いますし、コンロッドが不具合だということで、そこも同じ箇所だったのか、3件。と、もう一点、今エンジンの故障が起きていない6台の車両の点検を実施予定ということなんですけど、今走ってますよね。いつ実施になるか、それを教えてください。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 森安委員の御質問にお答えいたします。

これまで起きた車両不具合3件とも同じ箇所が破損しております。コンロッドにつきましても同じ部分の破損ということでございます。

あと、残りの6台の車両の点検予定ということでありますが、今三菱自動車工業株式会社のほうには強くこちらのほうから要望しておりまして、現段階では点検をしていただくという方向で話が進んでおります。点検の時期につきましては、今原因調査の解明中でございますので、解明ができた後にどこに不具合があったかというところを重点的に点検をしたいと考えております。解明については今の現段階では1月の末頃を見込んでおりますので、その後の点検になるというふうに今の

ところは見込んでおります。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 他に質疑はありませんか。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 教えてください。

破損して車が止まってタクシーを呼んだということなんですけど、そのタクシー料金であるとか、これから調査する実施予定のときに車が使えないときのいわゆる補償という言い方が適切なのかどうなのか、そのあたりってどういうふうになってるんですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

まず、タクシー料金につきましては、無理を言ってお出しただいてということなので、応援タクシーで使用している単価を業者のほうに支払っております。なので、通常の運行ではなくて応援車両、そちらのほうを適用して業者のほうにお支払いをさせていただいております。

支払いにつきましては、市のほうであくまでも運行委託の中で払いをさせていただいております。調査中にまた同じようなケースがもし万が一でもあった場合は同じように今のところは市のほうで対応する予定でございます。

以上でございます。

（「6台点検中に代車が要るんじゃないだろう。6台を点検に出したときには雪舟くんの代わりの応援タクシーなり使わにゃいけないのじゃないだろう。じゃけんそれも三菱自動車工業株式会社が持つんか市が持つんかという」と呼ぶ者あり）

（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 申し訳ございません。そこの最終的な判断につきましてはまだ原因解明中でございますので、三菱自動車工業株式会社との話でどちらが持つかというところまでは詰めてはないんですが、そこは原因が分かった時点、あるいはどういったことでこういうことが起こり得るかという話の中で今後詰めていきたいというふうに考えております。

点検時期についても一斉に点検をするのか、もちろん代替車というのにも必要になってくるので、順番に走行距離が長いものからしていくのか、そういったところについても今後の検討ということになっております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 報告事項なんで、あまり聞いてどうなのか分からないですけど、例えば1件目も、これ故障したら多分何日間も代車を使わないといけないという、それ全部総社市が本当に持つのが適切だったのかというところもあたりするんですが、それよりもそもそも乗客の方がま

ず安全で時間どおりに予定地に行けたのかどうなのかというところが重要だと思うんですけど、これ多分今行けてないと思う。朝の8時で一番どっか行こうと思ってるところなので、そこらあたりの乗客の方へのちゃんと説明と、感情的に何かトラブルにならないように対応されたんですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

乗客の方につきましては、乗客が乗られてたのは1件目と3件目でございます。1件目につきましては、市内のスーパーのほうに行こうとされた方、3件目につきましては西部地区の御自宅に帰ろうとされておる方で、病院とかで時間が決まってるという中での運行では幸いにもございませんでした。そのあたりは多少遅れは出ましたけども、乗客の方には丁寧に説明をしておわびを申し上げます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） この際、しばらく休憩いたします。

休憩 午後1時11分

再開 午後1時12分

○委員長（山田雅徳君） では、休憩を閉じて会議を再開いたします。

この際、私より申し上げます。

本件は報告事項であります。委員の皆様方の質疑の内容をお聞きしますと調査事項としたほうがよいと考えますので、調査事項として調査を行うことといたします。

他に質疑はありませんか。

岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 我が雪舟くん9台中3台同じことが起こるということでありますけども、今回のこの報告が3台目の10月22日の後、約2箇月近く、その間の情報は多少はありましたけれども、2月13日に最初に起こったわけでありまして、なぜそこで当該委員会に対する報告、真っ先には委員長、または議長、副議長にはなかったのでしょうか。どういった内部的な問題があって、また障壁となって報告ができてないのでしょうか。何が問題だったのでしょうか、お教えてください。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

今回3件目の報告ということでございます。1件目、2件目につきましては、三菱自動車工業株式会社のほうで原因調査中ということで、まだ結果が出てない状況でございました。結果が出た後に御報告しようということで、ちょっと遅れた形になっております。岡崎委員も御心配されているように、何かあった時点で御報告をすべきであったかも分かりません。申し訳ございません。

○委員長（山田雅徳君） 岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 人命に関わることじゃなかったかもしれませんが、じゃあこれ人命に

関わっておいたらすぐ報告するのか、人命に関わってなかったら報告しないのか、そういうふうに捉えられてしまうので、どこの世界でも悪いことは真っ先に報告する、結果がどうであれ、まず問題が起こった時点で報告をするというふうに決まっていはいませんか、いかがでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

本来であれば逐一こういったことにつきましては報告をすべきであったかと思います。結果的に報告がなされてなかったことにつきましては、おわび申し上げます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） コンロッド、これはエンジンがよくタコメーターがついとところでエンジン回転数が載ってますけども、1分間に1,000、2,000、3,000、4,000、5,000、レッドゾーンで、ものにもよりますけども、7,000、8,000、1万回転までありますけども、それぐらいの回るところなので、非常に考えにくい今回の事故なんですけども、そこで、これはすみません、聞いた話によるんですが、3台目、10月22日、車両がストップしたときに三菱自動車と連絡が取れなくて、連絡が取れた業者が引き取ったというふうに聞いておるんですが、その辺の連携は三菱自動車は私も個人のエンドユーザじゃありませんから、市なので、その辺の取決めはどうなっておったんでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

その日は10月22日は火曜日でございました。結果的には三菱自動車のお店をお休みにしているところではございましたので、通常の連絡が取りにくい状況でございました。なので、速やかに車両の移動が必要であると考えておりましたので、まずはレッカー、早急に手配できる方にレッカー移動をお願いしたという状況でございます。まずはそちらの移動のほうを最優先に考えさせていただきました。なので、三菱自動車の緊急連絡先につきましては携帯であるとかそういったものは、申し訳ございません、知ってはおりましたが、どちらが早く移動できるかというところで、市内の対応できる業者のほうをお願いしたということでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 他に質疑はありませんか。

高谷委員。

○委員（高谷幸男君） いろいろ経過があったと思いますが、例えば2月13日以降、あるいは6月5日以降、10月22日以降は、それぞれどういうふうな運行状況だったんでしょうか。例えば今の3台がないのであれば6台で全部回るんでしょうか、そういうわけにはいかんと思いますが、そのあたりの経過はどうでしょう。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 運行につきましては、故障のなかった車両についても運行を続けております。その理由といたしましては、もちろん利用者の安全性というものを最優先に考えた上で、運行そのものをやめるのか、あるいは故障してない車両を使用せずに、それに替わる移動手段を使って利用者を輸送するかなど検討する中で、雪舟くんに乗車したいという利用者のニーズ、それと規模、1日約180人の方に利用をいただいております、そういったものに対応できる輸送手段の方法、こういったものを鑑みた結果、故障してない6台の雪舟くんの車両を使用した上で、雪舟くんの運行委託事業者であったり三菱自動車工業株式会社と連携を強化いたしまして、安全確保に努めながら運行するという判断で続けておるところでございます。

運転手等の運行委託事業者、三菱自動車工業株式会社との連携につきましては、先ほどの説明の中でも説明をいたしましたが、雪舟くんの運行をしている交通事業者の運転手に対しまして、異音であったり振動であったり、何か通常とは違う異常な挙動についてこれまで以上に注意を払っていただきまして、何か異常を感じれば速やかに報告するように、それと万が一車両の不具合が生じた場合は冷静に対処し、乗客の安全対策を講ずるように伝えております。こういった形で運行のほうを続けさせていただいております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） すみません、今の質問は、恐らくですけども、例えば1台目がエンジン交換という対応をしているであるとか、2台目がエンジン交換をしているという間、9台の車が9台そろってないという状況下で8台で行ってたのか、場合によっちゃ7台で運行していたのか、その間を埋めるのはどういった対応をしていたのかという趣旨の質問だと思います。それに合った答弁をお願いできますか。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 申し訳ございません。故障した車両の修理期間、エンジンを積み替える期間につきましては、各交通事業者のタクシーを利用させていただきまして、応援車両で対応しております。3台とも同じような対応を取っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） そうすると、それぞれ故障してもタクシーなりで9台フル稼働すると。おおむねの目標が毎日250人、大体最近は180人ぐらいかと思っておりますけども、そうするとやはり9台は要るんですか。逆に6台ぐらいで全部回るんですか、そのあたりはどうですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 高谷委員の御質問にお答えいたします。

先ほど出ました250人ということにつきましては、6台とかであれば難しいと思います。今約180人の利用者の方に乗っていただいておりますが、この180人につきましても9台運行した上でできる数字かと思っております。これが6台とか5台とかになってきた場合には、180人の方を乗せ

るということは非常に難しいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 他に質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） なければ、一旦私からお聞きしてもよろしいか。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 三菱の車がこうなったということで、以前のトヨタ自動車のときは例えばコンロッドが破損したとか、そういう話ってあったんですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

トヨタ車両のときには、特に大きな不具合というものはございませんでした。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） じゃあもう一度、三菱車両のデリカは2回目だったんですか。初期のほうのデリカはこういう事故はありましたか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

三菱自動車の初期の平成28年度に購入した車両につきましても、多少の修繕とかはございましたが、大きな不具合というものはございませんでした。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 運転手はみんな同じ方だったんですかね、3回とも。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

今回の3件とも運行委託してる会社がそれぞれ違う会社でございますので、運転手もそれぞれ違う運転手でございました。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 9台のうちの3台がコンロッドが破損するとか折れたんだと思うんですけど、かなりの確率だと思うんですけど、三菱車両ってこれを聞いても分からないかもしれないんですけど、同じ事例があるようなことは言われてたとか、何か聞いたりはしましたか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

三菱自動車工業株式会社のほうにはそのあたりの確認をしております。同じ生産ライン、この9台だけが生産ラインに乗っていたというわけではなくて、10台、100台といろいろと生産ラインの

中でこの9台を総社市のほうに納車をしていただいている状況の中で、全国的にこのような事例があったかということをお聞きしたときには、全国的にはないというお答えをお聞きしております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 分かりました。これは三菱自動車のディーラーで点検管理を行っている車なんですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 点検管理につきましては、各事業所のほうでお願いしてます。なので、運行前の日常点検あるいは定期点検、この定期点検につきましても各事業所で付き合いのあるところで点検をしております、点検業者もまちまちでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 高谷委員。

○委員（高谷幸男君） このデリカを9台購入したわけですが、個人の方も持っておられる人もおられると思うんです。市内と県内とか、そういう方のこういうふうな状況、コンロッドが云々というようなことは聞かれておりませんか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 高谷委員の御質問にお答えいたします。

先ほど三宅委員のときにもお答えいたしましたが、同じような全国的なことで事例があるかということをお聞きしております。個人についても事業所についてもこういったものは聞いてないということで、そのときは回答いただいております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 聞かせてください。

この間の質疑の中で、3台ともエンジンが壊れました、それはコンロッドに破損がありました、同じような状況ですということの答弁だったと思うんですけど、確認をさせていただきたい。ちょっとマニアックなことになるんで、報告があれば教えていただきたいんですけど、全く同じところの同じ部分のコンロッドが同じように破損があったのか、エンジンシリンダーのナンバーシリンダーが同じところが本当になったのか、4気筒だったら四つあって、ばらばらでここのこれが壊れました、ここのコンロッドが壊れましたとかというのがあるんですけど、全く同じところの同じ部分のコンロッドが同じように壊れたのかというのをまず教えてください。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

この三菱車両は4気筒でございます。4番目のピストンのところのコンロッドが3台ともそこが破損してるという状況は聞いております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 分かりました。

続けて、すみません、4番目、同じところで同じコンロッドが折れたということでありまして、3台ともエンジンが壊れたということなんですけども、3台多分それぞれどの状態で車を止めたかにもよると思うんですけども、ただそれは不具合があつて異音なり何なりがあつて、止めてなったのか、エンジンが割れるところまで行ったのか。いろいろその3台が3台ともあると思うんですが、コンロッドが折れた結果、エンジンの例えばシリンダーブロックであるとか、そういったところが割れてしまうところまで3台とも行ったのかというのは、報告は受けていらっしゃるでしょうか。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

エンジンが故障する前兆がございました。異音があつた後にエンジンがストップして、数m走って停車をしたという状況でございます。

あと、コンロッドの破損によってシリンダーブロックのほうも破損をしております。コンロッドの破損によってシリンダーブロックも破損したという状況であるということを聞いております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 分かりました。

状況については少しずつ分かってまいりました。先ほど来同じライン、100台とかなんとか、同じ製造の部分で三菱自動車工業株式会社からは同様の報告はないということだったと思います。ということは、エンジン本体の不具合は基本的にはないというようなことを三菱自動車工業株式会社側は言ってくるのかなと想像ができるんです。そうなってくると、エンジン自体が問題ないということであれば、次に問題なのはこちらの整備状況がどうだったのかということだと思います。先ほどからも同様の質問がありますが、それぞれ事業者がそれぞれ整備をされているということでありました。ということは、それぞれ付き合いがあるところで整備工場でお世話になっているという今報告がありました。じゃあ、事故があつたこの3台は、それぞればらばらで付き合いのあるところであるのか、自分のところでやっていたのか、もしかするとこの3台とも同じ整備工場に入っていたのかというところを調べる必要があるのかなと思うんですけども、そのあたりの把握はいかがでしょうか。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

今回車両不具合の起きました3台につきましては、それぞれ違う点検業者のほうで点検に入っております。なので、違うところに入っております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 分かりました。ということであれば、じゃあその原因究明をどうしていくかということになってくると思います。それぞれ違う整備工場もしくは自社工場でされていたということであれば、車の自動車メーカーの言っていることを信じるのであれば、やはりそういっ

たところを突き詰めて当局側、担当課はしていただかないといけないと思っております。ですので、もう少し掘り下げた原因究明というのをしていただきたいなというふうに思っておりますので、ここから先は少しマニアックな話になるんですけども、その三菱車両のデリカ、クリーンディーゼルのエンジンの車ですけども、それに対応したエンジンオイル、純正オイルじゃなくてもいいんですけども、ちゃんとしたその規格に合っているちゃんとしたエンジンオイルを使ってるんですか、そういったところまでしっかりチェックをしていただきたい。そこもチェックした結果、こちら整備状況的には問題ないという結論なのであれば、再度三菱自動車工業株式会社にそういったところというのを強く訴えていくというのが購入した側の責任だと思いますので、そういったところの部分についてどういう方針か、どうだったのかというのをお聞かせいただけますでしょうか。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

先ほどの御質問の中でエンジンオイル、使用オイルの件もございました。そういったものにつきましても、現在雪舟くんを運行委託している交通事業者のほうから情報を取り寄せております。どこで点検をしてるとか、どういった点検をしてるとか、そういった部分につきましても取り寄せをしております。それを今三菱自動車工業株式会社のほうに返しておりますので、そこを今原因調査中でございます。なので、オイルがどうであったかとかというところまでを今回調査対象として調査をしていただいているという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 分かりました。ありがとうございました。一旦私からはここまでにします。

他に質疑はありませんか。

岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 先ほどの3番目の10月22日に起こった3号車11時30分便の件で、緊急連絡先の三菱自動車が連絡がつかなかったのも、近隣の自動車屋にレッカーをしてもらったということでもありますけども、じゃあ三菱自動車はいつこれ連絡がついたか、何か記録とかはされてます。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

三菱自動車と連絡がついたのは、翌日10月23日に連絡がつきました。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） それは何時ですか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 朝一で連絡がつきましたので、はっきりとはちょっと、9時から10時の間ぐらいということで記憶をしております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 10月22日には連絡しても連絡がつかなかったんですね。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

10月22日につきましては、連絡をしてもつかなかったもので、早急に対応できる市内の業者の方にお願いしたということでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 24時間365日動いてるものについては、緊急連絡がつくつかないかは非常にこれは大きな問題でありまして、携帯電話等々を基本的に業者が持っておれば、出れないときもありますので、折り返し連絡があるのは当たり前で、しかし23日の朝一にこちらから連絡をして連絡がついたというのは、正直この業界ではあり得ない話かなと私は思っております。

先ほど三宅委員のほうから代替車の件の質問がありましたけれども、最終的にこれは要望なんですけども、車のリコールの話になった場合に代車を出した費用はやはり全て三菱自動車工業株式会社が持つものだと思いますけども、その辺の決まり事はあるんでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 岡崎委員の御質問にお答えいたします。

そういったところの決まり事というのは現在ございません。もちろんじゃあどういった状況でどういうことがあって、今回の原因等いろいろ含めて考えたときに、じゃあどうしていくか、費用弁償についてはどうするかというものはそこからの話になってくるかと思えます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

他に質疑はありませんか。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） すみません、この原因調査を年明けにするという話でしたか、6台分。これ、1台目が今年の2月にあって、そもそも原因究明に至ってない調査中だというこの調査の結果というのはいつそもそも出てくるんだろうか、それが一つと、この残りの6台の点検を実施予定ということで森安議員が最初にお話聞きましたけど、年明けにこれを一気にやるという、時間がなぜそのタイミングなのかなというのを教えてもらえます。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の質問にお答えいたします。

現在調査中の調査結果につきましては、今部品等の確認をしておりますので、1月の末頃調査結果が出るのを予定しております。

(「三菱自動車工業株式会社から」と呼ぶ者あり)

○交通政策課長（渡邊康広君）（続） 三菱自動車工業株式会社のほうから市のほうに。ですの
で、点検につきましては、その調査結果が出てどこに不具合があったかというあたりのことが判明
した上でやったほうがいいだろうということで、1月末に調査結果が出た後の点検をということで
今は考えております。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 三宅委員。

○委員（三宅啓介君） 確認なんですけど、これ調査に出したのは何台目の破損があったのが分か
って調査に出したんですしたか。1台目からもう既にコンロッドが破損したので調査して、その結果
が出るのがあのおときからいけばもう半年以上、半年というか、もう1年です、1年後の1月中旬ぐ
らいなのかどうか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

1台目の破損のときから調査自体はしていただいております。まだはっきりした原因というも
のがちょっと分からないまま1台目、2台目ということが起きて、今回3台目が起きたという
ことです。3台目につきましても現在調査をしているというところで、あらかたある程度の調査と
いうことは進んできておるとい情報は三菱自動車工業株式会社のほうから受けておまして、最
最終的に先ほども言いました部品サプライヤーとか、こういったところにいろんな確認を取った後に
結果を出すということで、それが1月末頃を見込んでおりますので、期間が長くかかっておりま
すが、そういう状況でございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

他に質疑はありませんか。

高谷委員。

○委員（高谷幸男君） 9台のうち3台もこういう状況になって、点検したりいろいろしておるわ
けですけども、今後もあり得るんじゃないかという感じがいたします。そうすると、24時間連絡
が取れるように、そしてその補償とか等どのようにするかというのも十分協議していただきた
い、このように思います。市民もなかなか時間的に取れない、雪舟くんに乗ることができないと
いうことも多々聞くわけですので、十分な対応をして市民に提供できるようにしていただきた
いと思いますが、どうでしょうか。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 高谷委員の御質問にお答えいたします。

おっしゃられるとおり連絡体制というものはきっちり取っていないといけないというふう
に考えております。資料の今後の対応というところでも書かせていただきましたが、やはり連携を強

化してすぐに連絡が取れるような状況にしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

（「よろしいです」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） 他にありませんか。

まず、森安委員。

○委員（森安健一君） 今、点検の話もいろいろございましたけども、この車両不具合発生状況の中で、仮の話をするんですけども、これ4箇月ごとで発生してるんです。仮に次が4箇月とか、あと2箇月ぐらいで発生するかも分からないんで、そういった点検の、当局のほうから三菱自動車工業株式会社に点検だけ、そういう調査だけを待ってるんじゃないしに、早急という要望を出せます。ちょうど本当に4箇月ごとになってるんで、その辺お願いします。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 森安委員の御質問にお答えいたします。

早急に検査結果を出すようにということはうちのほうから伝えております。先ほど来お話をしておりますが1月末を見込んでいるというところでございますが、そこにつきましてもなるべく早く出すようにということでもお伝えしております。なので、結構リアクションといいますか、こちらから投げかけたことにすぐ対応するようにということを伝えておりまして、その総社市の販売店だけではなく、水島にあります倉敷事務所のほうともやり取りしておりますので、そちらのほうでスピード感を持って動いていただくようにというのは今お願いをしてるところでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

三宅委員。

○委員（三宅啓介君） すみません、度々。参考程度で分かる範囲でいいので、この不具合によってプラスアルファかかった金額を、また後日でいいので資料として算出してもらって教えていただけたらと思いますんで。

○委員長（山田雅徳君） 交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 三宅委員の御質問にお答えいたします。

かしこまりました。また、そのあたりの算定をいたしまして、提示をさせていただきたいと思えます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

じゃあ、私もう一回質問していいですか。

いろいろ三菱自動車工業株式会社に対して強くこれはもう訴えていくことというのは今それぞれの委員からあったと思いますので、ぜひそれは応援している立場ですから三菱自動車工業株式会社を我々は。応援している我々が一番厳しい目でいかないといけないのかなというふうに思っており

ます。

今こういった形で今回報告事項ということで資料を提出していただけてますけど、これは三菱自動車工業株式会社から出てきたある程度の調査の報告であるとかイラストであるとか、そういったものも含めて今回出していただけてるんでしょうか。というのが、できれば調査報告であるので、破損したエンジン本体の写真であるとか恐らく持っていると思うんですけども、このこういった部分がこんなふうに壊れましたよとかというのが欲しいなと思ったんですが、この資料についてまずお伺いいたします。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

資料に添付しております図面につきましては、これは三菱自動車工業株式会社のほうから頂いた図面ではございません。一般的なエンジンの図面、コンロッドの図面を掲載させていただいております。写真につきましては、三菱自動車工業株式会社のほうでも持ってるかと思います。私もその写真を目視をしたことはございますが、その写真自体をこちらのほうに提供をまだいただけていない状況でございますので、また委員会で報告をさせていただくときにはそのあたりの資料も添付させていただいて報告をしたいというふうに考えております。もちろんコンロッドの破損の原因であるとかというのはもちろん三菱自動車工業株式会社のほうから聞き取りをした結果、御説明をしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） ぜひ次回の所管事務調査になるのかどういった形になるのか分かりませんが、三菱自動車工業株式会社から報告書が出てきた場合は、それをこちらの委員会にも提示していただきたいと思います。この委員会が中心となってその購入予算というものを議決したわけでありますから、その責任が私たちにはありますので、ぜひそういったところをお願いいたします。

余談になりますが、このエンジン、これはガソリンエンジンなんですよ。なので、参考って書いていただいているので、エンジンこれ全く違う図面でありますので、ちょっとマニアックな話でしたけども、そういったこともあります。デストリビューターがついておりますんで。

お尋ねしたいというのか、車についてはこれでいいんですけども、市担当課としての姿勢についてお伺いをしたいと思っております。

結果として3台続けてこういったエンジンが故障という、これ本当に大変な故障であります。パンクしたとかというレベルではない故障であります。こういったものが1台目はまあまあ理解できるんですけども、2台目や3台目というのが続いたときに、これは大変なことだということは恐らく皆さん御認識だと思います。先ほど来、質疑の中で残りの6台については1月になって点検をするというような話、調査報告が出てから点検なり何なりするということですけども、森安委員の質疑でもありましたけど、これは本来ならば2台目ぐらいが起こったときに、これはとんでもないことですから、残りの8台の運行を止めてでもしっかり調査するとかなんとかするというふうにする

べきではないのかなと思うんです。職員が移動する車、それがいいとは言いませんけど、職員がただ移動するだけの車とは雪舟くんは用途、役割が全く違うものでありますから、安全というものを最優先にするのであれば、私は少なくともすぐに運行を止めて、問題はないのかというのをしっかりチェックをするべきだと、そういうふうに三菱自動車工業株式会社にも訴えるべきだったとは思いますが、そういうふうな考え方はいかがでしょう。

交通政策課長。

○交通政策課長（渡邊康広君） 山田委員の御質問にお答えいたします。

先ほどの答弁の中でも少し触れさせていただきました。運行をやめるという選択肢もございました。あるいは故障してない車両を使用せずに、それに替わる移動手段、例えばタクシーを使ったりであるとか、そういったものも考えました。その中で高谷委員のほうからもございましたが、今1日180人の方が御乗車いただいと。雪舟くんに乗りたいというニーズが非常に高いというところで、そのニーズ、移送人数、そういったものを満たすにはどうしたらいいかというところで、市のほうが今判断をしたのが今運行している結果なんですけども、その判断の中では点検を強化して、何かあったときにはすぐ対応できるような体制を取って運行していると、運行を続けているというところが今市が取っている判断でございます。

以上でございます。

○委員長（山田雅徳君） 御答弁いただきました。その判断した結果、3台目につながっているわけでありまして。3台目は乗車した状況、乗客がいた中でそういったことになったということでありまして、1台目のときに市はそういう判断をした、2台目の不具合があったときに市はそういう判断をしたという答弁でありますけども、その結果3台目が起きたという、これは事実でありますので、これまでの委員が指摘しておるように、これがもし4台目が続いたらどうなるのかという状況があると思います。現時点では4台目が起こるかもしれないけども、1月のその点検ができるまではそのまま運行していこうという選択をしているということではよろしいのでしょうか。

市民生活部長。

○市民生活部長（平田壮太郎君） 皆様御指摘のとおり、3台目現実に破損いたしました。点検については再度早めに行うよう三菱自動車工業株式会社と調整してまいります。4台、5台と起こることないよう、早めに調整してまいります。

○委員長（山田雅徳君） でありますので、今4台目、5台目が起きてはならないと私は思っております。ですので、所管事務調査という内容の中でありまして、私はもう少しでも早く運行を止めてチェックするべきだということはこの場で申し上げておきます。それを受けて少しでも早くとかって、その対応をされるのは執行部とか担当課の判断にはよるとは思いますが、少なくともその4台目というものには絶対にあってはならないと思っておりますので、私は運行を止めてでも、昔のデリカを再使用するとか、そういったことをしてでも、市民の命を乗せておるわけですから、そういったことをしていただきたいというふうに思っております。

少しまた違う観点でのお尋ねをしますが、総社市の対応として三菱自動車工業株式会社にどうい
うことをしているのかという確認をさせていただきたいと思います。市長のSNSによりますと、
11月12日、三菱自動車本社へ野口健氏と共に加藤社長を訪ねましたとあります。この場にいらっし
やる方はその場に同席はされていないと思うんですけども、そのときの市のトップとして三菱自動
車の社長に、雪舟くん9台のうち3台がこういう状況になったんだというのを当然報告して、当然
ある意味文句を言っているんじゃないかと思いますが、そういった発言があったのかなかったのか
というのを、この場の方はお答えができないと思いますので、また後日の所管事務調査でもどこの
タイミングでもいいんですけども、市のトップである責任者である市長がそういう発言を向こうに
したのかどうかというのを確認させていただきたいと思います。その点について確認していただけま
すでしょうか。

副市長。

○副市長（中島邦夫君） 確認いたします。

○委員長（山田雅徳君） ぜひよろしく願いいたします。

他に質疑はありませんか。

岡崎副委員長。

○委員（岡崎亨一君） 質問じゃございません。4台目が起こるかもしれない、4箇月ごとにこの
ことが起こっておりますので、これで統計的に行くと来年の2月頃また4台目が起こるかもしれな
いということで、エンジンの破損で終わってますけども、要望です。人命を乗せる車なので、調査
が終わってからとか、どこの責任とか出る前に、万が一本当に人命を失ったら本当にどうするん
でしようかということまで想定をしておかないと、大問題につながったら本当に困ります。だから
民・民じゃなくて官・民のことなので、役所のほうは石橋をたたいてでもこのことにしっかりと対
応して、先手先手を打っていくべきだと思いますから、悠長なことを考えとる場合じゃ僕はないと
思います。三菱自動車工業株式会社の報告を待ってとか、調査の体制を待ってとかと言ってる場合
じゃ僕はないと思いますので、答弁結構ですから、よくよく考えてください。

以上です。

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

では、他に質疑はありませんか。この程度で止めますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） 本件についてさらに調査を行う必要がある場合は、委員間で自由討議を
行う場を持ちたいと思いますが、いかがいたしましょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山田雅徳君） よろしいですか。

分かりました。それでは、これをもって質疑を終結いたします。

本件については、本日はこの程度にとどめたいと思います。

以上をもちまして、本日の報告事項、調査事項は全て終了いたしました。

これをもちまして、本委員会を閉会いたします。

閉会 午後 1 時52分

総社市議会委員会条例第30条第 1 項の規定により、ここに押印する。

総務生活委員会委員長 山田 雅徳